

古殿末

基本方針

古殿の総人口は昭和30年代から減少傾向にあります。平成7年の国勢調査では、人口が7,348人、また65歳以上の人口比率が24.9%と高齢化も進行し4人に1人が高齢者です。町ではこれらを踏まえ、地域づくりの達成のため基本方針として、

1. ゆとりのある生活の町
2. 町民と町外の人が親しく集う町
3. いなかの都市圏
4. 森林を核とした農工商観の四位一体
5. まちづくり推進体制

を掲げさまざまな対策を推進しています。

国土・県土計画

●阿武隈地域総合開発

生き生きとした阿武隈の里づくり、多様な交流による地域づくり、首都機能などの展開の場づくりを基本方針とし、福島県は平成6年に「阿武隈地域総合開発基本計画」を策定しました。古殿町は、あぶくま新高原都市ゾーン、阿武隈南部ゾーンに位置し、自然と都市機能が調和共生し、緑に包まれた広域的な都市の形成、交流の推進と余暇活動空間の形成を図ります。

●F I T 構想（北関東・南東北県際地域総合計画）

F I Tは、福島・茨城・栃木の3県が協力して、県際地域を中心とする地域整備を進めていこうという計画です。平成7年には八溝山を中心とした県際地域25市町村で「八溝地域活性化構想推進協議会」を設立。「八溝八景構想」推進のため調査・研究に取り組んでいます。

●第三次郡山地方広域市町村圏計画

古殿町は、福島県が進める「広域市町村計画」の郡山圏を構成する2市16町村に入っています。そのなかで古殿町を含む石川地方は、1. 臨空産業ゾーンとしての役割を担う、2. フライト農業、都市型農業の展開を促進する、3. 滞在型観光レクリエーション地域の形成を目指すとしています。

3、まちづくりを担う人づくり

4、働きがいと活力のあるまちづくり

5、町民本位の行財政の改革